

市長	副市長(代)	部長	課長	課長補佐	G L	政策企画担当
						(主)

会議報告書

会議名	平成29年度矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会
日時	平成29年10月4日(水) 午後6時30分 から 午後8時20分
場所	市役所3階 第一委員会室
出席者	策定委員及びアドバイザー 17名 栃木県地域振興課 1名 市長 教育長 総合政策部長 事務局 6名 計27名

1. 開 会 (午後6時30分)

進行：室井総合政策課長

2. 市長あいさつ

皆さま今晚は、矢板市長の齋藤淳一郎でございます。

矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会の開催にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

本日お集まりの多くの皆さまにおかれましては、一昨年1月に策定いたしました「矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に関しまして、策定委員として、また、昨年度の検証委員会と多大なるご協力、ご指導をいただきまして誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

最新の9月1日現在の毎月人口調査では、矢板市の人口は33,209人と33,000人を上回ってはいるものの、人口減少がなかなか止まらないところではありますが、「矢板市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」で立てました2060年に25,057人という目標を達成するため、「総合戦略」の基本目標である「人口減少の克服戦略」と「人口減少社会への適応戦略」という2つの戦略と「安定した雇用を創出する」「来てもらう、住んでもらう人の流れをつくる」「各世代を支援する」「活力と魅力あるまちをつくる」という4つの基本目標に沿った事業を展開していきたいと考えているところであります。

そのためには、総合戦略で示した基本目標を実現するため、国で行っている地方創生の交付金事業を活用して、ソフト・ハードの両面から様々な施策を展開している所であり、実施した施策、事業の効果を検証し、必要に応じて具体的施策の改訂や実施事業の見直しといったプロセスを進めていく必要がございます。

そこで本日は、委員の皆さまに「総合戦略検証委員」として、前年度の事業実績や進捗状況などについて、忌憚のないご意見をいただければと考えておりますので、お時間の許す限り大いにご発言をいただきますようお願い申し上げます。本日は、どうぞよろしく願いいたします。

○自己紹介

・総合戦略策定委員会が名簿順に挨拶。栃木県地域振興課職員は総合政策課長より紹介。

3. 議事

(1) 矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るK P Iの平成27年度実績値の報告について

・議事(1)について、資料に基づき事務局より説明。

【質疑・意見等】

(しごと)

Q：事業所数が増加しているようだが、商工会の加盟数は減少している。感覚的にも事業所が増えている

と思えないが、数値は間違えていないのか。

A：総務省で実施している「経済センサス」から数値を引用している。担当課より数値を上げていただいているが、後日確認する。

意見：小規模事業所については、ハローワークでは把握していないため、事業所数の数はわからない。ただ、大田原市の求人が伸びており、矢板市から大田原市へ流れている実態はある。

意見：従業者数も事業所数も減少しているように感じる。シャープもピーク時に比べ2/3に減っている。数値が実態に合っていないように思える。

Q：集落営農組織の法人化が進んでいないようであるが。

意見：そもそも農業に株式会社等の組織が馴染まないのだと思う。また、農家同士で話をすると、あまり理解もされていないと思う。KPIを生産法人数や認定農業者数に変えても良いのではないかと思う。

意見：企業誘致については、南産業団地への引き合いは増えている状況にある。昨年度2社、今年度1社の出社があった。県内で増加しているようで、目標値は達成できると見込んでいる。

意見：片岡地区は新幹線が通っていて、在来線の駅があり、高速道路のインターチェンジ、国道4号線が走り、数百メートルに集中している。全国でも珍しい場所だと思う。

(ひと)

Q：0-4歳人口がかなり少なくなっているのが気になる。合計特殊出生率が1年古い数値になっているが。

A：現状値を基準に1年ずつ算出している。

意見：スポーツコミッションでは、全国でも成功事例が多くある。ぜひ力を入れて事業を進めてほしい。コロナでJプロツアーが行われてから、週末に自転車で来られる人が多くなっている。

Q：市内に高校が3校あるが、うまく何かできないだろうか。

A：すでに連携している。

意見：矢板武塾に各高校より生徒に入ってもらっている。テーマを「居場所づくり」として実施している。栃木市が先進地で、市内9校で実施しており、視察へも伺ってきた。今年度は組織化を行い、来年度から自立を検討している。全国的には、高校生カフェができている自治体もあり、今後、市内での活動に期待できそうである。

意見：Uターン者への支援であるが、現在、全国的に動きがある。Uターン者へは地域の受け入れ態勢が重要であり、県でもサポートセンターを設置している。大学進学等で首都圏に出てから戻ってくる割合は3割程度であるが、できるだけ多くの人に戻ってほしいと考えている。もちろん全員に戻ってもらうことは不可能であるが、戻るきっかけとして、若いうちに愛着を持ってもらうことが必要である。

意見：空き家対策についてであるが、地域資源として移住を促進する活用方法がある。先進地事例もあり、リフォームしてからは売れず、改修費を助成すると人気が出ているようである。

意見：空き家対策と関連してだが、畑付きの家を買いたい人がいるが、農家ではないため農地の売買ができないことがある。家庭菜園を希望していてもできない状況にある。

意見：0-4歳の人口が減少していることについてであるが、子育てしやすいまちというのは、小児科医がいることが重要である。力を入れていきたい。また、国際医療福祉大の大田原キャンパスは約4,000人の生徒が通っており、うち大田原市内に住んでいるのは2,800人いる。若い人が多く住むと街も活性化するので、何かしらの方法で若い人を呼び込めるとよいと思う。

Q：近隣自治体に負けないような施策を実施していきたい。病院の協力を願いたい。そこで、病児・病後

児保育が大学（大田原）で始まっていると思うが、矢板市でやっていただけないでしょうか。

A：すでに大田原では実施しているが、平成30年4月より那須塩原市でも始めることになっている。矢板市はいいことに待機児童がいないと思うが、きっかけは、大田原市も那須塩原市も待機児童がいたため、地域に協力するというで始まったという状況である。

Q：ふるさとへの愛着度の数値が載っていないが。

A：予定では今年度アンケートを実施。来年度の実績に記載される予定である。

意見：市内の全ての小学校に郷土資料館の見学をしてもらったり、それぞれの小中学校ごとに地域にあった教育を取り入れている。そういった教育を行うことで、多くの児童生徒に愛着を持ってもらいたいと考えている。

意見：愛着・Uターンについてであるが、矢板市内には良い企業がたくさんある。小学生に地元企業を見学させ、意識付けをしてはどうだろうか。就職を考えるとときに地元に戻るきっかけになるのではないか。

意見：市内の高校で就職希望の生徒は、企業訪問を行っている。来年度、市内生徒の採用もする予定でいる。

（まち）

意見：地域のコミュニティとしては、敬老会を実施したり市民体育祭等に参加している。行政区の推進はしても行ってもらっているが、分譲業者にも説明を行ってもらっている。そのため戸建ては行政区に加入されるが、アパート等は入らない現状がある。

Q：JRの乗降者数は片岡駅と矢板駅の乗降者数の内訳はあるのか。片岡駅改修後、乗降者数が増えたのであれば矢板駅の改修も行ってもらいたい。

A：用意していない。次年度以降、片岡駅東口の再整備を検討している。矢板駅はその後の改修になると思う。また、先日、栃木県知事と共にJR東日本大宮支社へ要望活動に行ってきた。内容は、「みどりの窓口」の再設置を訴えてきた。高校生の定期券の更新が手間になっていると思う。

Q：職員は派遣できないのか。

A：人件費相当の費用を出す旨の話はしてきた。良い返事をもらえればと願っている。

意見：小さな拠点づくり事業であるが、県としても重要な取り組みになっている。補助制度もあるので、ぜひ実施願いたい。

A：昨年度より、各行政区を回り懇談会を行っており、その際、泉地区内で懇談会を行った際に説明を行ってきたが、引き合いがなかったのが現状である。片岡地区はコミュニティがしっかりしているので、事業実施を検討していきたい。

意見：地方創生という大きな枠組の中で、どのような事業をどのように行うか、また、国が作った制度のため規制やしぼりがあり難しいと思うが、もう少しメリハリをつけて事業実施していければと思う。特に、事業を行う上でストーリーがあると実施しやすいと思う。例えば、出生数を増やす事業に力を入れるとすると、企業を誘致し工場ができ、そこで働く人が矢板市に移り住み、幸せな生活ができる、というふうなイメージを持てると事業に取り掛かりやすくなる。広く事業を行うのもよいが、広く行うことで薄く見えてしまう。

また、上がっている数値についても、数値の中身や意味を理解する必要がある。（創業数10→17：創業後はどうなっているのか、矢板ブランド：品数が増加して売り上げが伸びているのか等）

ふるさと学習や、話に上がった企業見学についてであるが、とても重要なことである。できれば年齢の近い人を見せた方が効果がある。子どもに、若い人たちが仕事をしたりまちづくりしている姿を見せることで、将来自分たちもやりたいという意識になる。

これからの時代は地域コミュニティが重要になり、地域を支えるのはコミュニティである。高齢化の問題もあるが、若い人たちが入れるよう仕組みを変えていくことも必要である。

(2) 地方創生交付金事業について

- ・議事(2)について、資料に基づき事務局より説明。

意見：現在、栃木県内は自転車ブームなので追い風に乗っていけばいいのではないかと思う。自分も自転車に乗っていて矢板市内にも来たが、どこを走ってよいかわからなかった。車で来る人向けに駐車場の案内をし、モデルコースを作って外から人を呼び込める地域だと思う。あまりコストをかける必要はないがウェルカムな姿勢が重要である。

A：県北では自転車で来られる方が増加している。サイクリストに市町境は関係なく、広域で具体的なルートを作りたいと考えている。また、地域として、必要な情報が一つになっていない課題もある。そういったことから、経済効果が出るようにサイクルツーリズム協議会を立ち上げ情報発信をしていきたい。

(3) その他

- ・特になし

4. 閉会 (午後8時20分)